



報告事項 1

都市マスタープラン改定に向けた 取組状況について

0. 藤沢市都市マスタープランの概要

- 0-1. 藤沢市都市マスタープラン策定経緯と位置づけ
- 0-2. 現行都市マスタープランの将来都市像と基本方針・
地区別構想
- 0-3. 本日の報告事項について



0-1. 藤沢市都市マスタープラン策定経緯と位置づけ

策定経緯

1957年「藤沢総合都市計画」策定

1999年「藤沢市都市マスタープラン」策定

都市計画法の改正及び大きな社会状況変化を受け、都市形成、都市整備の推進を主に計画

2011年「藤沢市都市マスタープラン」改定

人口減少や既存ストックを活用した都市形成及び都市経営を視野に入れる時期を迎えたことから改定

2018年「藤沢市都市マスタープラン」部分改定

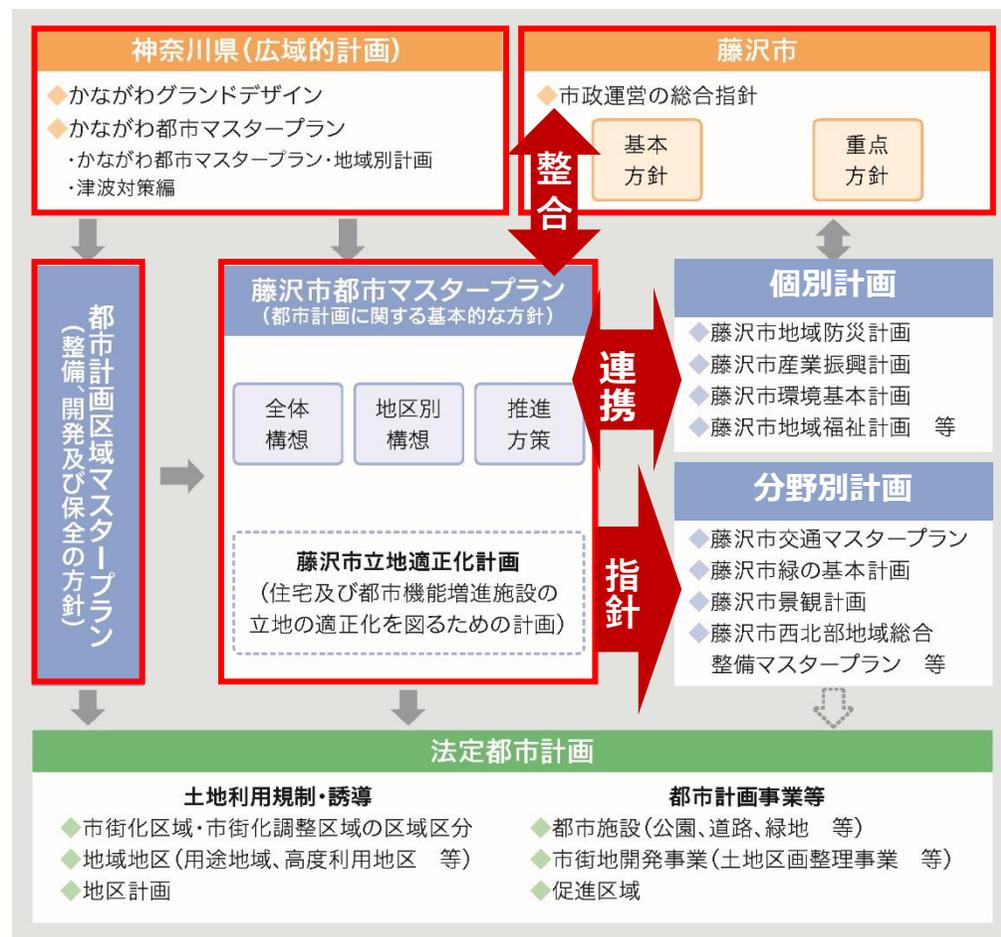
「立地適正化計画」の制度化など、都市を取り巻く社会状況等の変化に伴う都市計画への新たな要請が高まってきたことから変化に対応

2026年「藤沢市都市マスタープラン」改定

社会潮流や価値観の多様化とともに都市に求められる役割も変化→これまで形成してきた都市構造をベースに、都市の充実・更新をめざす

都市計画マスタープラン：

都市計画法第18条の2の規定に基づき策定する「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、概ね20年後の都市の姿を展望して都市計画の基本的方向を定めるもの



図：現行計画における相関関係

将来都市像

「自立するネットワーク都市」

将来都市構造 (5つの要素)

①交通体系

-  ラダー型交通軸
-  鉄(軌)道
-  鉄(軌)道(計画・構想)
-  自転車専用道路
-  自転車専用道路(計画・構想)
-  一般幹線道路
-  一般幹線道路(計画・構想)
-  海上交通(計画・構想)

②都市拠点

-  都市拠点

③自然空間体系

-  水と緑のネットワーク

④市街地の構成

-  住宅系市街地
-  産業系市街地
-  西北部地域

⑤地区の構成と地区拠点

-  地区拠点



都市づくりの基本方針

将来都市像を実現していくための6つの都市づくりのテーマ

- ① 13地区別まちづくり
- ② 活力を生み出す都市づくり
- ③ 低炭素社会構築に向けた都市づくり
- ④ 災害に強く安全な都市づくり
- ⑤ 美しさに満ちた都市づくり
- ⑥ 広域的に連携するネットワークづくり

地区別構想

市内の13地区ごとに、現況・課題を整理し、分野別の方針を記載

地区別構想の構成

- | | |
|---------------|----------------|
| (1) 現況 | (4) まちづくりの基本方針 |
| (2) 都市づくり上の課題 | (5) 地区将来構造図 |
| (3) 地区の将来像 | |

0-3. 本日の報告事項について

現行
計画

将来都市像の実現に向け重点事業等の実施により
集約型都市構造の形成を進めてきている

現況把握、潮流
・課題の再認識

様々な方法で
意向を把握

1. 都市マスタープラン改定に向けた取組状況について

1-1.
社会潮流

急速で多様な変化

1-2.
都市づくり
の課題

少子超高齢社会に伴う
様々な課題が顕在化

1-3.
市民等の
意見

地域意見交換
団体ヒアリング
ブレスト会議
市民アンケート 等

改定に
おける
テーマ

市民の暮らしを支えてきた都市づくりから、市民の暮らしを高める都市づくりへ
「ひと」を中心に「まち」をみる

2. 改定にあたってのポイントの整理

2-1. 改定におけるテーマとポイント

2-2. 多様な活動とまちを結び付ける

3. 藤沢市都市マスタープランの改定案の検討

3-1. 都市マスタープランの構成イメージの検討

3-2. ビジョン編・プラン編

1. 都市マスタープラン改定に向けた 取組状況について

- 1-0. 各種協議会等の開催
- 1-1. 考慮すべき社会潮流の整理
- 1-2. 都市づくりの課題の整理
- 1-3. 市民意見の把握と整理



1-0. 各種協議会等の開催

藤沢市都市計画審議会

改定の進捗状況を報告

- | | | |
|-------|---------------|---------------------------|
| 第185回 | 2023年11月24日開催 | 「藤沢市都市マスタープランの改定について」 |
| 第188回 | 2024年 5月28日開催 | 「現行都市マスタープランの進行管理について」 |
| 第190回 | 2024年11月28日開催 | 「都市マスタープランの改定に向けた取組みについて」 |
| 第191回 | 2025年 5月28日開催 | 「都市マスタープラン改定に向けた取組状況について」 |

藤沢市都市マスタープラン策定協議会

改定に必要な検討・討議

- | | | |
|-------|---------------|--------------------------------------------|
| 第 1 回 | 2024年12月25日開催 | 「藤沢市都市マスタープラン改定方針（案）について」
「都市づくりの課題の整理」 |
| 第 2 回 | 2025年 3月31日開催 | 「市民等の意見について」
「都市マスタープランの改定骨格について」 |

藤沢市都市マスタープラン改定庁内調整会議

改定に向けた庁内調整

- | | | |
|-------|---------------|---------------------------------------------------|
| 第 1 回 | 2024年11月22日開催 | 「現行都市マスタープランの概要について」
「藤沢市都市マスタープラン改定方針（案）について」 |
| 第 2 回 | 2025年 5月 8日開催 | 「都市マスタープラン改定に向けた取組状況について」 |

1-1. 考慮すべき社会潮流の変化の整理

改定における背景を踏まえ、以下に示すとおり、考慮すべき主な社会潮流を整理しました。近年の急速な社会の変化を踏まえると、予測しにくい未来について都市づくりにおいては、長期的な方針を持ちつつ、一方で臨機応変に対応できることが必要と考えます。

主な社会潮流

人口構成の変化や多様化する暮らし方

人口減少及び少子超高齢社会の進行
地域への関わり方の多様化
ライフスタイル・ワークスタイルの多様化
量的から質的な豊かさ

様々な社会的課題への対応

脱炭素社会の実現
自然災害の激甚化・頻発化
自然環境の維持保全
グリーンインフラの実装

都市の持続可能性

産業構造の変化 産業基盤の維持・充実
地域資源・地域特性への着目
インフラ・公共施設の維持・管理
効率的な交通体系の構築

相乗効果や新たな価値創出の期待

多様な主体・分野との連携の推進
AI・IoTなどの新技術の進展
移動・伝達の広域化・高速化
モビリティ技術の革新

1-2. 都市づくりの課題の整理

本市の現況及び特性などを把握したうえで、都市づくりの課題を「都市の持続可能性を担保するための課題」、「人と地域を元気にするための課題」、「実現手段・プロセスの課題」に整理しました。

I. 都市の持続可能性を担保するための課題

1. ストック活用、保全及び誘導
2. 都市のレジリエンスの強化
3. 社会潮流を踏まえ様々な活動を支える「移動」
4. 都市拠点や産業のポテンシャルを活かす土地利用の促進
5. 自然環境や低未利用地の役割の付加

II. 人と地域を元気にするための課題

1. 多様な世代が健やかに暮らしやすい環境の確保
2. 活力あるコミュニティや活動を支える場づくり
3. 地域の資源（財産）の共有と有効活用

III. 実現手段・プロセスの課題

1. 市民協働の促進・市民活動との連携
2. 公民連携・各種新技術等の導入

1-3. 市民等の意見

郷土づくり推進会議 (令和5年度・6年度)

意見交換会の開催



【ねらい】

- ① 地区の課題の抽出
- ② 地域のまちづくりの方向性や取り組むべき事項の把握

団体ヒアリング (令和6年度)

まちづくりに関連する各分野毎の市民活動
団体、企業を対象にしたヒアリング

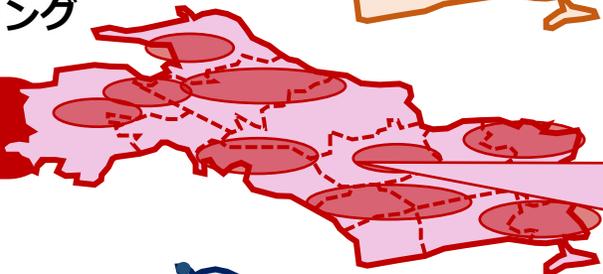


【ねらい】

- ① 活動内容や活動推進上の課題の把握
- ② 今後展開したい活動、まちづくりへのアイデアの把握

ブレスト会議 (令和6年度)

団体等及び公募市民による
ワークショップ型の会議



【ねらい】

- ① 市民等が共有できる将来（ビジョン）検討のためのキーワードを抽出
- ② 市民等が期待する取組のイメージを抽出

市民アンケート (令和6年度)

地域、年齢別のバランスを考慮した市民を
対象にしたアンケート調査



【ねらい】

- ① 市民の暮らしの実態と期待する暮らしのあり方の把握
- ② 藤沢市のまちの魅力と都市として望む将来像の把握

その他 (令和5年度・6年度)

その他、各種からの意見
〈例〉 子ども・若者が感じるまちへの意見

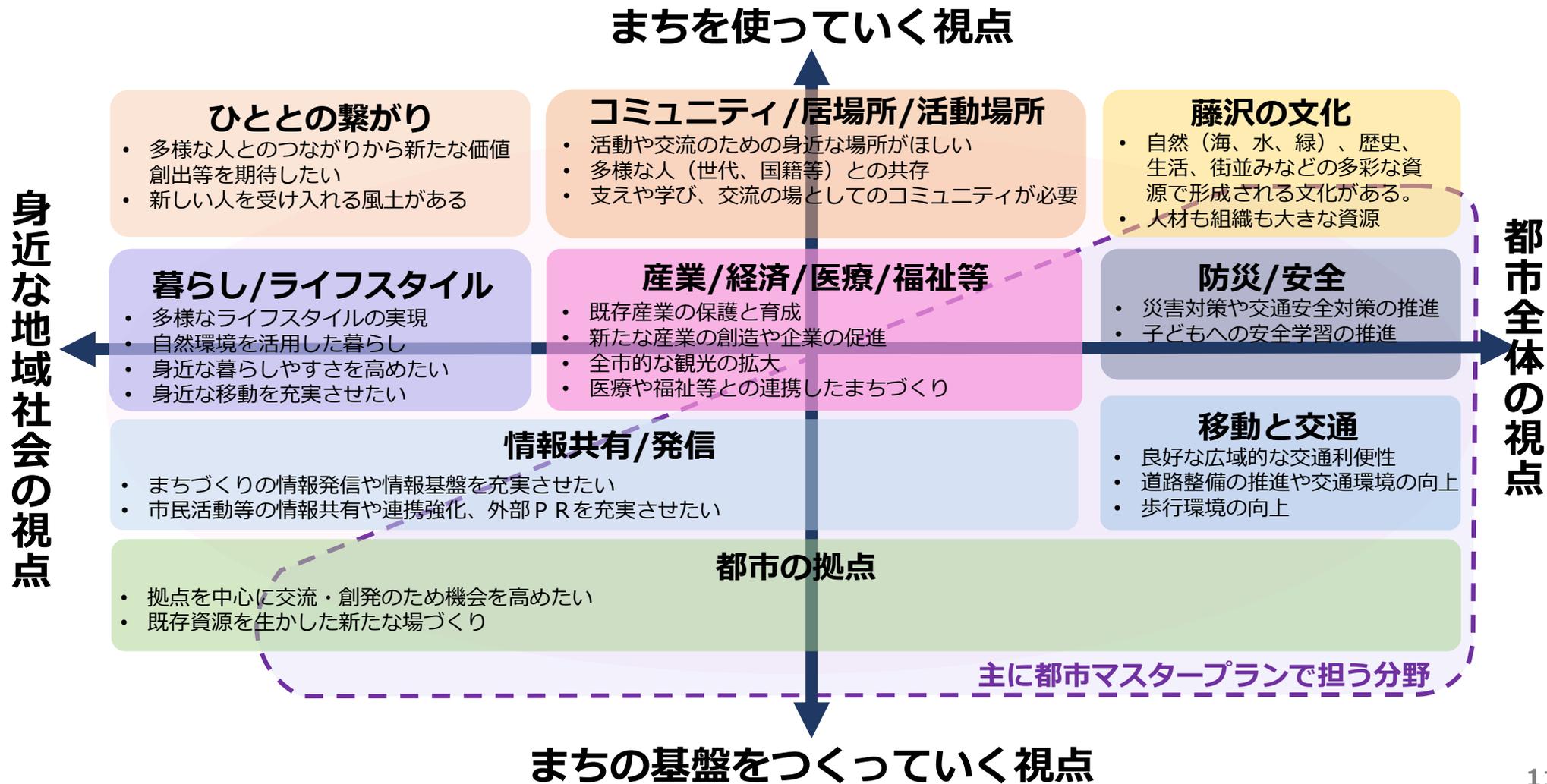


【ねらい】

- ① 各種で行った会議やアンケート調査等で得られた意見の把握
- ② 次世代の大人となる今の子どもたちが将来のまちに期待する気持ちを把握

1-3. 市民意見の把握と整理

これまでに得た市民意見を都市計画の観点から、横軸を「都市全体の視点」と「身近な地域社会の視点」、縦軸を「まちの基盤をつくっていく視点」と「まちを使っていく視点」として分類し、整理しました。



2. 改定にあたってのポイントの整理

- 2-1. 改定におけるテーマとポイント
- 2-2. 多様な活動とまちを結び付ける



2-1. 改定におけるテーマとポイント

改定におけるテーマ

藤沢に住み、働き、交流する等、本市に関わる様々な「ひと」が、都市空間における生活や地域社会、各種活動等を「まち」という場を通して見ることで、本市の描く藤沢の未来を共有するとともに、より多くの「ひと」と共創したまちづくりが進められるよう、フォーカスする場を工夫することも意識して改定に取り組みます。

意識する観点

これまで目標としてきた将来都市構造の考え方は今後も中長期的な方針として念頭に置きつつ、次に示す観点を意識し、都市形成・まちづくりに積極的・計画的に取り込み、「持続可能な藤沢のまちづくりを進化させる」ことをめざします。

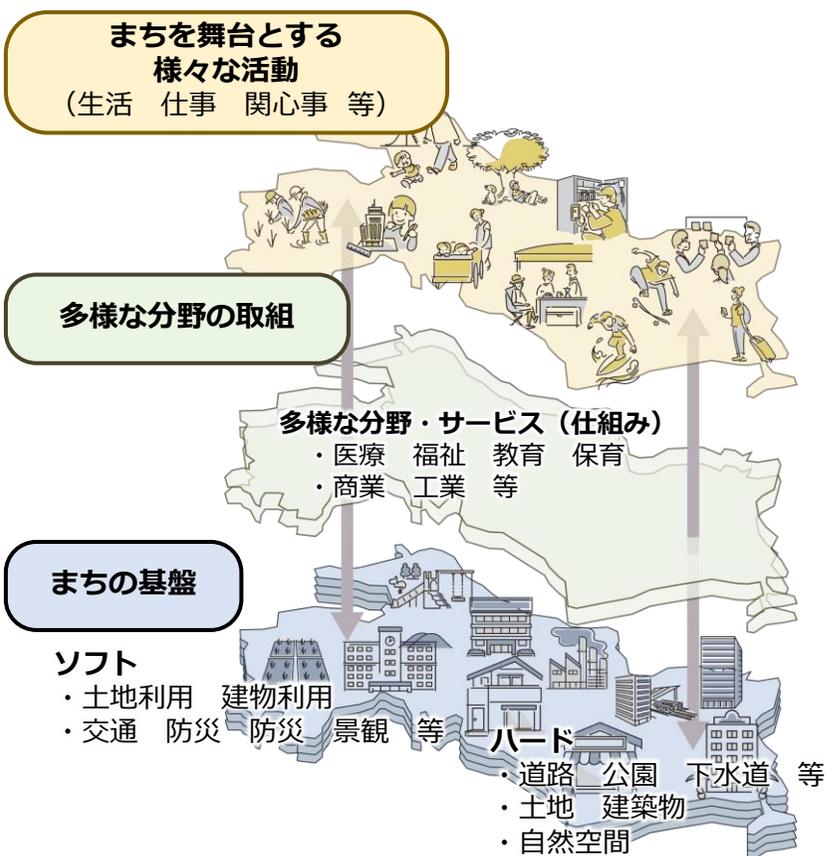
1. **社会変化を見据えたまちのチューニング**にきめ細かく取り組む。
2. まちを取り巻く**社会的課題や技術革新等から複合的なプラスを創出**できるよう、多角的なアプローチを図る。
3. **藤沢が輝くための原動力を生み出し続ける**ために、基盤を整え、磨き続ける。
4. **多様な活動とまちを結び付ける**ことでまちの魅力を高める。

2-2. 多様な活動とまちを結び付ける

改定にあたってのポイントの検討

都市基盤等の「まちの基盤」と行政や民間等による「多様な分野のサービス・取組」のもと、生まれる「まちを舞台とする様々な活動」の三層に分けて整理しました。

これまで現行計画をもとに、「まちの基盤」を築いてきている中で、新たに「多様な分野のサービス・取組」において、「まちの基盤」をうまく使ってもらうという視点や、「まちを舞台とする様々な活動」がまちとつながる・まちづくりにとりこむという視点を追加し、連携をめざします。



持続可能な藤沢のまちづくりを進化させる

ポイント3 様々な活動とつながる・とりこむ

まちを舞台とする様々な活動をまちづくりにとりこみ、多様な主体の活動の促進をめざします。

ポイント2 うまくまちを活用してもらう

都市計画と多様な主体や多様な分野との連携により、まちを効果的・効率的に使う視点を重視します。

ポイント1 まちの基盤を磨き続ける

これまで実現をめざし築いてきた将来都市構造は継続しつつ、社会状況の変化を見据えて、きめ細かな微調整や維持更新を行います。

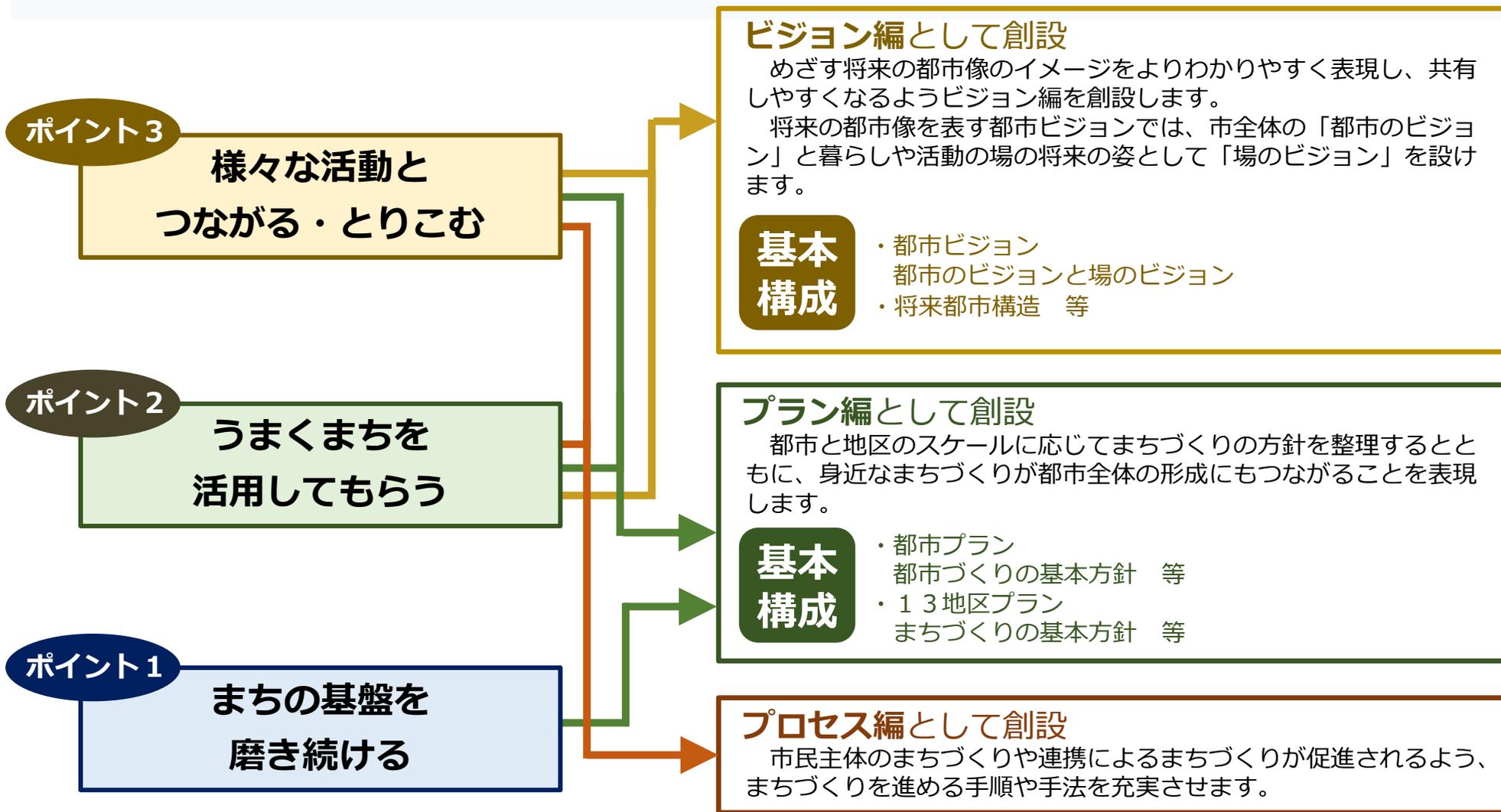
3. 藤沢市都市マスタープランの 改定案の検討

- 3-1. 都市マスタープランの構成イメージの検討
- 3-2. ビジョン編とプラン編について



3-1. 都市マスタープランの構成イメージの検討

改定にあたってのポイントを踏まえた、改定計画の骨格は次のとおりです。



都市ビジョン（将来都市像）

将来都市像(現行計画)

自立するネットワーク都市

都市は自立することによって、はじめて連携できます。
連携することによってはじめて、都市は自立することができます。

交流連携しながら自立して健康に生き生きと暮らせる都市

持続的に活力を創造できる都市

市民と行政の協働により個性ある地域で構成される都市

自然環境の保全等を通じ地球環境と共生する都市

現行の将来都市像では、自立やネットワークに広域行政間や地域間における自立や機能分担と連携、交通におけるネットワーク、市民の自立と行政との連携という意味が込められています。

都市ビジョン（改定計画）

全体像としての都市のビジョンと場のビジョンへの再編

都市のビジョン

これまで培ってきた都市の形のなかで都市の充実・更新を進めるため、持続可能な藤沢のまちづくりを進化させることを念頭に、**現行計画の将来都市像を社会潮流の変化を踏まえ検討**を進めます。

都市のビジョンで実現するいくつかの空間のイメージ



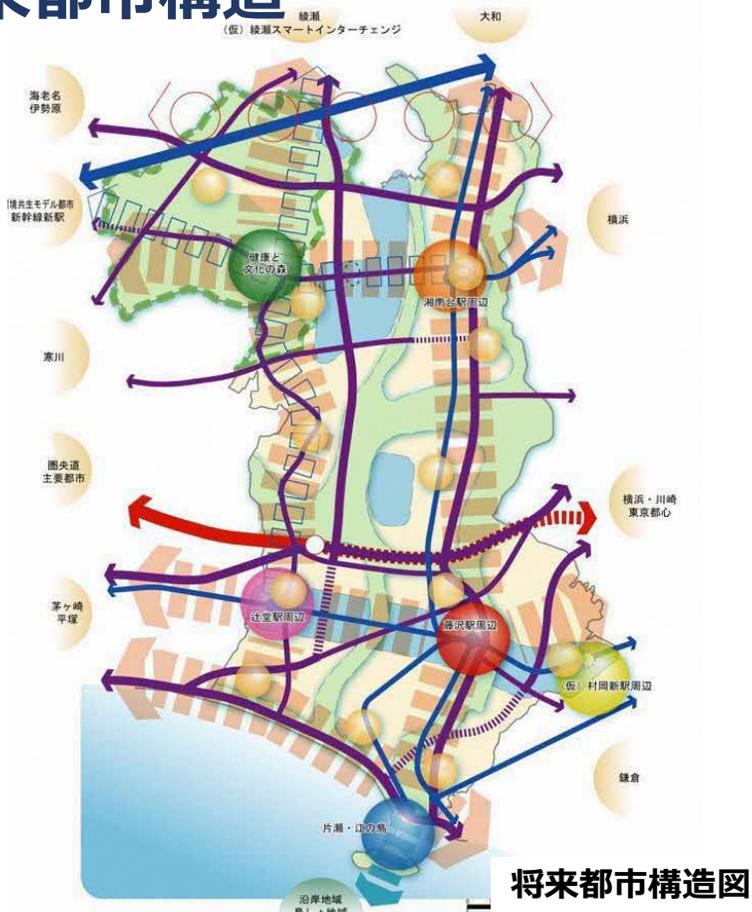
場のビジョン

都市空間や仕組みの重なり（レイヤー）が作り出す舞台の上で、ひとが行う様々な活動のワンシーンを「場のビジョン」と定義します。

改定計画では、特に象徴的と捉える「場」を設定し、そこで展開される活動の様子やその場が持つ空間イメージを示すことで、「都市のビジョン」へとつなげます。

3-2. ビジョン編とプラン編について

将来都市構造



①交通体系

- ラダー型交通軸
- 鉄(軌)道
- 鉄(軌)道(計画・構想)
- 自動車専用道路
- 自動車専用道路(計画・構想)
- 一般幹線道路
- 一般幹線道路(計画・構想)
- 海上交通(計画・構想)

②都市拠点

- 都市拠点

③自然空間体系

- 水と緑のネットワーク

④市街地の構成

- 住宅系市街地
- 産業系市街地
- 西北部地域

⑤地区の構成と地区拠点

- 地区拠点

現行計画

「①交通体系」「②都市拠点」「③自然空間体系」「④市街地の構成」「⑤地区の構成と地区拠点」の5つの要素で都市構造を構成

各要素について「配置の方針」や「配置の考え方」を示すとともに、都市を形成する骨格となるべきものを「将来都市構造図」として示している。

改定計画

持続可能な藤沢のまちづくりを進化させることを意識し、様々な活動を取りこみ、連携によりうまくまちを活用、まちの基盤を磨き続けることが重要となります。

都市の充実・更新をめざし、また都市をより使ってもらおう方向へシフトする中で、改めてこれまでに築いてきた都市構造をベースとし、この中で各要素が持つ役割や機能を社会潮流等を踏まえつつ整理を行うこととします。

3-2. ビジョン編とプラン編について

都市づくりの基本方針

改定のポイントを反映した都市づくりの基本方針は、次のとおりです。また、新たな方針として「ひとつつながるまちづくり」を加えます。

【現行計画】

都市づくりの基本方針

① 13地区別
まちづくり

② 活力を生み出す
都市づくり

③ 低炭素社会構築
に向けた
都市づくり

④ 災害に強く安全な
都市づくり

⑤ 美しさに満ちた
都市づくり

⑥ 広域的に連携する
ネットワーク
づくり

各方針の主な追加・強化の視点

- ・ 13地区に加えて様々な単位での地域まちづくり
- ・ 住工混在・商住混在の在り方
- ・ 身近な生活利便施設の在り方
- ・ 変化に対応した暮らしやすさ
- ・ 市街化調整区域の在り方

- ・ 都市拠点の整備進捗を踏まえた更新
- ・ 新たな価値創出（活動・新産業・イノベーション）
- ・ 商業地の土地利用の在り方
- ・ 農地の在り方

- ・ 脱炭素社会の実現へ向けた対応
- ・ 気候変動への適応策の推進
- ・ グリーンインフラでめざす自然との共生
- ・ 脱炭素社会における身近な暮らし

- ・ レジリエンスを強める
- ・ 激甚化、頻発化する災害への備え
- ・ 事前復興まちづくり・防災都市づくり
- ・ 延焼リスクへの備え（低層住宅地）
- ・ 日常的なまちづくりが防災体制の強化へ

- ・ 居心地が良く歩きたくなるまちなか形成
- ・ 地域資源を生かした地域まちづくり
- ・ 都市空間の利活用

- ・ 身近な暮らしを支える仕組みや新技術
- ・ スマートシティの実現に向けた取り組み
- ・ 新技術の積極的な導入検討

- ・ 都市を舞台とする活動を通じひとつとまちがつながる
- ・ まちづくりをひとつ中心に進める
- ・ 多様な主体・多様な分野と「まち」をつなぐ
- ・ 次世代への継承

ポイント1

まちの基盤を磨き
続ける

ポイント2

うまくまちを
活用してもらう

ポイント3

様々な活動と
つながる・とりこむ

【改定計画】

都市づくりの基本方針

様々な単位でのよりきめ細かで
住みよいまちづくりの方針へ

1. 住みよさを育む
都市づくり

既存活力を維持・活性化し新た
な価値・活力を創出する方針へ

2. 活力を創造する
都市づくり

脱炭素社会への転換や気候変動へ
の適応策を推進する方針へ

3. 自然と融合する
都市づくり

日常的なまちづくりが防災体制の
強化にもつなげる方針へ

4. 強さとしなやかさを
持つ都市づくり

地域資源を最大限生かし質を高め
美しい都市や場を創出する方針へ

5. 美しさに満ちた
都市づくり

広域的な役割を担い最先端の仕組
みや新技術を取り込む方針へ

6. 連携と挑戦の
都市づくり

活動を取り込み多様な主体等との
連携を推進する方針へ

10. ひとつつながるまちづくり

横断的に作用

4. スケジュール



4. スケジュール

本計画の改定に向けたスケジュール案は次のとおりです。

年度	令和5年度				令和6年度				令和7年度				
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	
検討内容	← 基礎資料収集・分析、課題整理等 →				← 改定方針等検討 →				← 改定素案等検討 →				★ 改定
都市計画 審議会			● 改定報告		● 進行管理		● 改定報告2		● 構成等	● たたき台	● 素案	● 案	
策定 協議会							●	●	●	●	●		
庁内 調整会議							●		●		●		
市民等との 協働・連携	← 郷土づくり推進会議等との 意見交換 →								← 郷土づくり推進会議等への 検討状況等の報告 →				
									← 多様な主体への 意見収集や情報発信 →				● パブリックコメント
議会			●				●		●		●		

5. 参考資料



改定に向けて各地区での意見交換を実施し、課題やまちづくりの意向を把握しています。

北部・西部：御所見・遠藤・湘南大庭

人口

- ・若い人々が魅力や住むメリットを感じてもらえるような取り組みを

土地利用

- ・働ける場所が少ない
- ・農家の後継者不足、農地の宅地化や駐車場・資材置き場の混在、農業支援や幹線道路周辺の規制緩和を
- ・買物不便や幼稚園不足など生活利便性の改善を

水・緑

- ・宇都母知神社・大庭城址などの利活用やアクセス改善を
- ・均一な使い方ではなく公園の個性を出す取り組みを

道路・交通

- ・いずみ野線延伸の実現を

災害

- ・遠藤の浸水対策と農地の保全を

沿岸部：辻堂・鵜沼・片瀬

人口

- ・少子高齢化と一括りにせず地区特性の把握を

土地利用

- ・商業地内のマンション化に対する景観や土地利用に関するビジョンを持つべき

水・緑

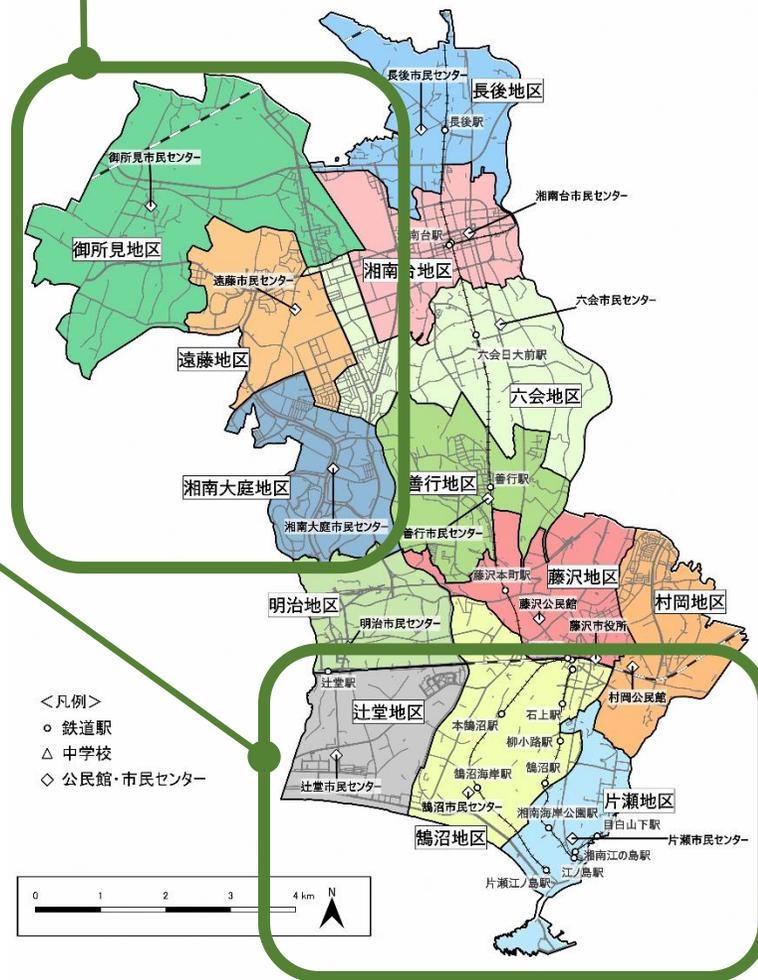
- ・地域の拠点や避難場所となる公園・広場の整備・活用を

道路・交通

- ・JR南北の分断や駅周辺の渋滞解消を
- ・歩行者・自転車の安全な通行環境の整備を
- ・高齢者の移動支援を

災害

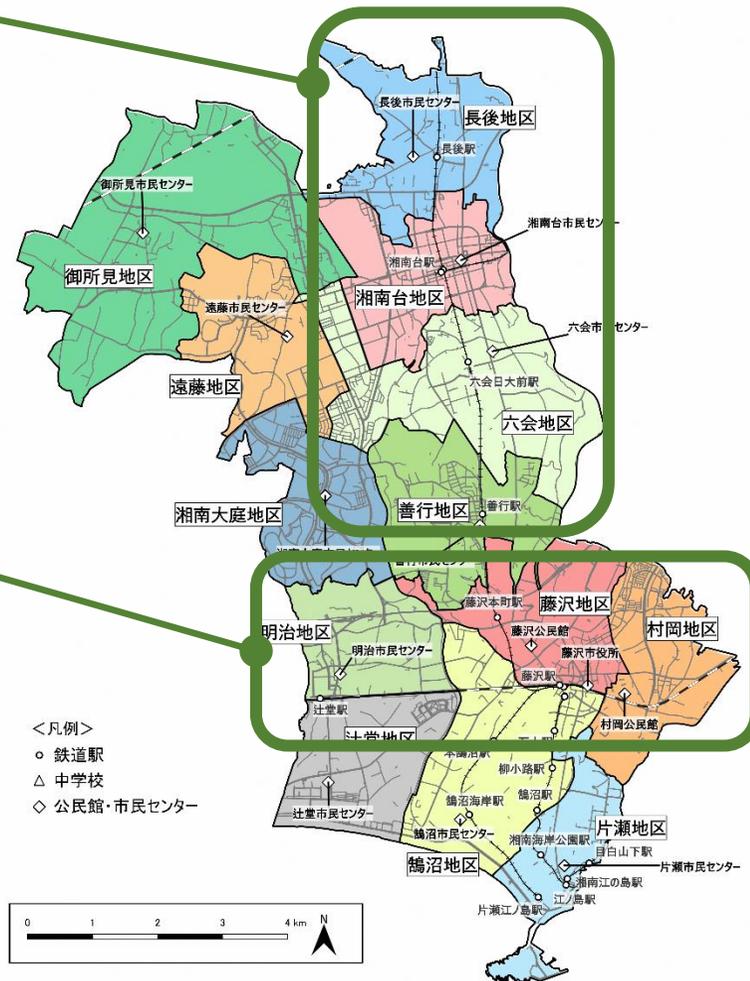
- ・狭あい道路が多いことから、避難路や避難施設の確保、耐震化、不燃化など防災まちづくりを



改定に向けて各地区での意見交換を実施し、課題やまちづくりの意向を把握しています。

小田急線沿線：長後・湘南台・六会・善行

- | | |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 人口 | ・高齢化が進むことで起こりうる行動範囲の狭小化を生じさせにくくする取組を |
| 土地利用 | ・駅周辺の空き店舗対策、店舗の誘導など賑わいづくりを |
| 水・緑 | ・湘南台公園、石川丸山谷戸公園、日大の緑地、下土棚遊水地の上部利用公園など、緑の地域資源の活用を |
| 道路・交通 | ・線路や河川による東西の分断に対し移動しやすい環境を
・安心して歩行でき、自転車も利用しやすい道路空間の整備を |
| 災害 | ・公園の整備だけでなく災害時に利用できる避難空間を |



東海道周辺：明治・藤沢・村岡

- | | |
|-------|---------------------------------------------------------------|
| 人口 | ・AIを活用した分析も行っていくべき |
| 土地利用 | ・藤沢宿など歴史や文化を伝承するため官民連携の推進を |
| 水・緑 | ・気候変動に対応した道路などの被覆を |
| 道路・交通 | ・渋滞の解消、歩行者・自転車の安全な通行環境の整備を
・高齢者の移動支援を
・地区や学区の分断に配慮した計画を |
| 災害 | ・宅地の細分化は防災面において考慮すべき課題である
・狭小道路に面した木造の建築には防火に対する制限を |

調査の目的

市民団体、公的団体、企業から市内でまちづくりの活動する組織について活動状況や課題、今後の展望について聴取し、**都市マスタープランにおける連携によるまちづくりのあり方の検討**の参考とする。

【調査概要】

- 1) 調査方法：ヒアリング方式
- 2) 調査時期：令和6年11月～令和7年2月
- 3) 主なヒアリング内容
(活動内容・メンバーについて／活動上の課題について／今後展開したい活動、まちづくりへのアイデア)

【調査対象団体】

区分	活動分野	名称	区分	活動分野	名称
市民団体 (16)	環境保全、教育	藤沢グリーンスタッフの会 藤沢サンクチュアリ	市民団体 (16)	福祉・生涯学習	アジアスマイル 湘藤
	観光	江の島・藤沢ガイドクラブ		文化芸術	藤沢今昔・まちなかアート実行委員会
	教育・交流	湘南市民ワークショップ		歴史文化・まちづくり	湘南藤沢文化ネットワーク 旧東海道藤沢宿まちそだて隊
	都市づくり学習	ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会	公的団体 (2)	観光	藤沢市観光協会
	空き家活用	特定非営利活動法人すまいる まちづくりハウスみろくじ協働プロジェクト 全国空き家アドバイザー協議会 神奈川県藤沢支部		産業振興	藤沢商工会議所
	健康	湘南ふじさわウオーキング協会	企業 (6)	交通	交通系企業2社
	公園愛護・交流	辻堂の民		ライフライン	ライフライン系企業2社
	市民活動支援	藤沢市民活動推進機構		医療研究	医療研究系企業1社
コミュニティ	長後フロンティアプロジェクト	まちづくり		エリアマネジメント1社	

【意見概要】

ブランド/資源活用

藤沢の個性を
活かし人を育てる
まちづくり

- ・ 転入者が多く、人を迎え入れる土壌がある藤沢市
- ・ 藤沢市のアイデンティティの共有・継承を
- ・ まちづくり活動につなげる前段階の、まちづくり教育やまちづくりを考える経験、プロセスが大事
- ・ 市民との対話を通じて地域ごとの性格付けをしたうえで広域・長期的なブランドデザインを

資源活用と
観光まちづくり

- ・ 大きな観光資源だけでなく市内に点在する歴史・文化・自然資源の一体的な活用・PRを
- ・ 藤沢で宿泊したくなるコンテンツを
- ・ 風情や賑わいのためにマンション化への対応を
- ・ 西北部の観光資源活用のための交通改善を
- ・ 地域の学校や商店会等とも連携して歴史・文化の紹介を

住まい/安全

住宅地の
まちづくり

- ・ 高齢者が孤立せず地域で生活できるようラストワンマイルの移動支援を
- ・ 空き家の諸事情や地域性をみて、住まいのマッチングや多様な活用を（働く場や地域の魅力発信等）

環境・
防災まちづくり

- ・ 子ども達が自然を学べる場、人と自然が共生する場の創造を
- ・ 災害から守る街づくりを（避難所のみではなく）
- ・ カーボンニュートラルや被災後まちづくりで連携を

場と情報

活動・交流の
場づくり

- ・ 市民や活動団体が気軽に使え、交流できる場を
- ・ 活動団体が一同に揃って出展・体験できる場を
- ・ 長い目で支援の仕組みを

情報共有・発信

- ・ まちづくり活動と関わる整備スケジュールなど情報発信を
- ・ 活動やイベント等の情報発信の支援を

開催の目的

活動団体、企業など市内のまちづくりに関係する方や公募の市民の参加により、**都市マスタープランに描くべきビジョンや取組の意向について把握**する。

- ① 市民等が「共有」できる「将来」（ビジョン）検討のためのキーワード抽出
- ② 市民等が望む取組イメージの抽出（取組と連携・支援の体制・プロセス検討への活用）

【開催概要】

日 時 : 2月12日(水) 18時~20時半
 場 所 : 藤沢市役所本庁舎会議室
 参加者 数 : 41名
 検討テーマ : 選ばれるまちってどんなまち/活動や交流の舞台になるまちってどんなまち/各地域の長所や推したい特徴を考えよう
 検討 方法 : 全参加者が3つのテーマについて話をする(「ワールドカフェ方式」にて実施)

【参加者属性】

活動 団体 : 20名
 公的 団体 : 6名
 企 業 : 4名
 公募参加者 : 11名

藤沢市都市マスタープラン改定
「ブレスト会議」参加者募集!
 Fujisawa Urban Master Plan
 Brain - Storming Meeting

2025.2.12(水) 18:00-20:30

藤沢市役所本庁舎5階 5-1・5-2 会議室

内容
 1 都市マスタープランの改定について
 2 藤沢の未来を育めるブレスト!
 ・藤沢市民の未来は?
 ・藤沢のまちの未来は?
 ・市民や企業が実践すべき取組みは?

お申込み
 方法
 電子申請による申込、または
 藤沢市都市計画課へ申込書を提出

応募条件
 ・藤沢市在住もしくは活動、在学の方
 ・藤沢市に業務で関わっている方
 ・藤沢市において市民活動やまちづくり等の活動をされている方

募集人数(応募人数)
 50名程度(10名程度)
 ※応募多数の場合は抽選

参加申込みは **2025年(令和7年)1月28日** まで!
 藤沢市電子申請システム e-Kanagawa から
 申込書は藤沢市HPからダウンロードできます。

主催・お問合せ: 藤沢市(都市計画課) 0466-50-3537(直通)
 会議運営:(株) 都市環境研究所



【意見概要】

I. 選ばれるまち

藤沢ブランドの 確立	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度や環境、遊びなどブランド化されているもの多くあり ・「ひと」の良さ、コミュニティも重要な要素に 	
魅力的な地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや教育、サービス等も良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なライフスタイルの実現
働き方や経済・にぎわい	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場の多さ、起業、研究機関等の多様性 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の賑わいや観光振興
藤沢との出会い方	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的なイベントの開催と藤沢ファンの醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用した魅力的なスポットの多さ

II. 活動や交流の舞台になるまち

多様な場が バランス良くある	<ul style="list-style-type: none"> ・何気ない小さな空間、目的を問わないフラットな空間、アクティブな空間の必要性 	
活動や交流、学びの 目指すもの	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が街を好きになる ・世代問わず楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域に開かれる ・互いに学びを得ることができる
活動と交流の 舞台になるために	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の参画促進 ・現状の資源を活かした場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の仕方の寛容性 ・情報発信の工夫
どんな「ひと」と 「まち」が必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・理解のある、責任感のある、繋がりのあるひと ・新しいアクションが常に生まれている 	

III. 各地域の長所や推したい特徴

推したい長所や特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・市全域で歴史・文化芸術・教育、自然、産業・観光各分野で多数の特徴（資源）が抽出 ・広域アクセス、生活も趣味も仕事も充実できる環境の存在 	
魅力としての「ひと」	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧住民の共存、地区毎の個性と活動の多さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を受け入れる人の多さ
人口減少時代を見据えた 考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力を活かして住み、働く人を増やす ・地域の資源を活かし子ども達が地域を学ぶ次世代の育成の場に 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活かし負の財産から正の財産に

調査の目的

都市マスタープラン改定にあたり広く市民意見を収集する。

【調査対象】

市内在住の15歳以上の方3,000名
抽出に当たっては、居住地区・年齢に偏りが出ないように配慮

【調査方法】

配布 方法 : アンケートを依頼する(チラシを郵送で送付)
回答 方法 : Web上での回答
実施 期間 : 2月14日(金)～2月28日(金)

【回収数等】

回収 数 : 734件(/3000件)
回収 率 : 24.5%

【アンケート設問】

区分		各問を聞く意味/狙い
問1	回答者のふだんの暮らしの行動	・通勤・通学先、買物の場所、休日の外出先等の把握
問2	回答者の住むまちの魅力、望む暮らしのあり方(各項目4段階評価)	・回答者が感じる地域の魅力と、望む暮らしのあり方(ライフスタイル)の把握
問3	藤沢のまちの魅力と将来のあり方(各項目4段階評価)	・藤沢市全体の現在の魅力と、目指すべき都市像に対する考え方を把握
問4	回答者自身について(フェイスシート)	・性別、年代、職業、住所(町名・字名まで)、居住地区
問5	自由記述	・自由意見、まちをよりよくするためのアイデア等



【結果抜粋】

自分の住むまち（自宅から徒歩圏）について

自分の住むまちの**魅力**は
 どんなどころだと思えますか。

- ・「みどりが豊か」「静かな環境」など良好な住環境を評価する意見が多い
- ・商業環境については地区により評価が分かれる

自分の住むまちでこれから
どんな暮らしをしていきたいと
 思えますか。

- ・「静かな環境」「健康づくりのための環境」「屋外の居心地の良い場所」など自然、健康を志向する意見が多い

藤沢市のまち全体について

藤沢市の**魅力**はどんなどころに
 あると思えますか。

- ・「気候が穏やか」「都心に通いやすい」「自然が豊か」など現状の暮らしやすさが評価されている

これから藤沢市が**目指すまちのあり方**として、何が重要と考
 えますか。

- ・「災害に強い」「みどりが充実」「住宅地・商業地の充実」「市民・コミュニティ活動のしやすさ」などを重視する意見が多かった

藤沢市のまちづくりに関する自由意見（抜粋）

住みやすさ

- ・全般として住みやすく、今後も住み続けたい
- ・緑が多く、快適に過ごせる
- ・鉄道網が充実して移動しやすい

道路、交通

- ・慢性的に渋滞している箇所を解消してほしい
- ・歩道が狭いため歩きにくい箇所がある
- ・バス便が少なく困っている
- ・駅周辺等の駐輪場が不足している

防災、防犯

- ・水害、地震、津波など、防災対策を強化してほしい

商業、観光

- ・市北部の利便性を高め、活性化してほしい
- ・観光資源を生かしつつ、周辺住環境等との調整も適切に行ってほしい

その他

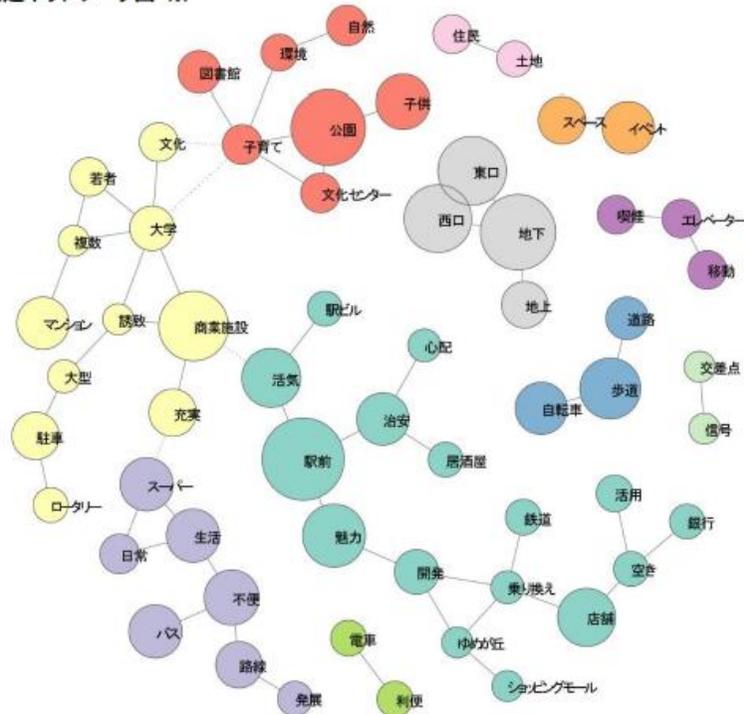
- ・子育て環境、教育環境を充実させてほしい
- ・美術館、博物館など文化的な施設を充実させてほしい

そのほか

- ・ 湘南台駅周辺及び辻堂駅周辺においてまちづくりに関するアンケートを実施し、駅周辺の居住者や駅の利用者の意向を把握
- ・ 高校の総合的な学習の授業での取り組みに協力し、発表会に参加
- ・ 大学生が主体となって小学生を対象に地域のまちづくり学習を行う”ふじさわこどもまちづくり会議”に参加し、運営者及び参加者の意見を聴取

例) アンケート調査の自由記述のとりまとめ

共起ネットワーク図 ※



ふじさわこどもまちづくり会議
こどもまちづくりワークショップ（毎年開催）の様子
出典：ふじさわこどもまちづくり会議HP

(現行) 都市マスタープランの構成

0 序章

- 都市マスタープランとは

I 現況と課題

- 都市づくりの経緯
- 現況と特性
- 将来展望
- 都市づくりの主要課題

II 全体構想

- 都市づくりの基本理念
都市づくりの基本的視座
- 目標とする都市
将来都市像 将来都市構造 将来フレーム
- 都市づくりの基本方針
6つの基本方針 方針図

III 地区別構想

- 現況と課題
現況 都市づくり上の主要課題 地区の指標
- 地区の将来像
- まちづくりの基本方針
土地利用 交通 水・緑 景観・防災・都市づくり等
- 将来構造図

IV 推進方策

- 13地区別マネジメントの推進
- 主要プロジェクトの戦略的展開
- 多様化する都市づくりの担い手との連携推進
- 都市計画・都市づくりを支える情報共有の更なる推進
- 進行管理と見直し
- これからの藤沢都市計画の考え方

V 資料編

- 用語解説

(参考) 現行計画との構成比較

(改定) 都市マスタープランの構成イメージ

※カッコ書きは現行計画での名称

0 はじめに

- 都市マスタープランとは

I ビジョン編

- 都市づくりの基本理念
都市づくりに関する基本的視座を示す。
- 都市ビジョン (将来都市像)
都市のビジョンと場のビジョンを設定。
- 将来都市構造
主な都市構造の構成要素を説明
将来都市構造図を記載
- 将来フレーム
都市マスの目標年次及び目標人口等を示す

II プラン編

- 都市プラン (全体構想の都市づくりの基本方針)
都市づくりの基本方針を記載
基本方針に対応する方針図を記載
- 13地区プラン (地区別構想)
まちづくりの基本方針を記載
基本方針に対応する地区方針図を記載

III プロセス編

- 都市施策の重点事業等に関する方針や進行管理
- 分野横断・多様な主体との連携によるまちづくりに関する方策
- 時代の変化に対応した柔軟な見直しの考え方

IV データ編

- 用語解説
- 現況と課題